

安全とは

「荒茶も規制の対象に」と、政府が新たな方針を発表した6月2日
 県内茶業関係者に、再び大きな衝撃が走った

「調査の必要なし」という姿勢を貫いてきた静岡県では一転
 「一番茶の荒茶、一番茶の製茶について「茶産地ごと調査する」と表明した



◀7日のテレビニュースでは、県内で最も早く「一番茶の製茶調査」を実施した志太榛原周辺の結果を報じるニュースが流れた。対象となった全茶産地で放射性ヨウ素は検出されず、放射性セシウムは暫定規制値内と伝えていた。



茶の放射能調査、政府と県で意見食い違い
 川勝平太知事の静岡茶安全宣言を受け、県内各茶産地では、新茶の安全キャンペーンを繰り広げた。本町でも5月22日、特産品販売所四季の里前を会場に、安全キャンペーンを展開した。
 それから約一週間後の6月2日。政府は生葉・飲用茶以外に、加工過程にある「荒茶」と最終段階である「製茶」とについても出荷規制の対象とする」と発表。茶業関係者に大きな衝撃が走った。

荒茶の調査では非常に高い数値が出たという。
 静岡県では一貫して「荒茶は製造上の一過程であり、直接飲食するものではない」として、調査は「生葉・飲用茶」のみという姿勢を保つてきた。しかし政府が、荒茶と製茶を規制対象に加えた理由として「一部の荒茶が、ふりかけや抹茶アイスなどの食品に加工されているため」と示したこと、県は態度を一変した。
 6月3日、川勝平太県知事は「今後収穫が始まる二番茶から荒茶の調査を実施する」との方針を発表。また一番茶の製茶段階での調査も実施することとした。

また、「消費者の安全が一番大事。最終的に消費者の口に入る製茶は、規制値を超えるものは決して出さない」と記者団に向けて述べている。
 県では6月7日、志太榛原周辺8カ所で生産された「販売前の製茶」について、放射性物質を調査。政府が示した方針に従い、6日から検体を採取、厚労省の機関に検査を委託したもの。結果、全地点で放射性セシウムが検出されなかったが、最も高い数値の金谷茶でも385ベクレル、川根茶では350ベクレル、いずれも国の暫定規制値を下回った。改めて川根茶の安全性が証明された。

静岡茶初の規制値超え 本山茶産地に衝撃走る
 しかし事態はめまぐるしく変動する。6月9日午後6時ごろ、県は会見を開き、「藁科地区（本山茶）の製茶から、暫定規制値を超える放射性セシウムが検出された」としら…。二番茶以降も予断を許さない状況です。静岡県は、県内で最も大きな茶産地ですから、静岡茶全体に及ぼす影響は計り知れないと思います。来々週予定されている農協の会合は、この問題の議論に始まるでしょう。今は、調査の状況を注意深く見守ることしかできません。茶農家(静岡市丸子)30代男性に6月14日インタビュー

本山茶産地近隣の茶農家の「声」



●志太榛原周辺の製茶の放射能調査 (6月7日)

産地	製茶 単位: Bq/kg	備考
藤枝茶	305	
島田茶	311	島田市 (旧金谷、川根町除く)
川根茶	350	旧川根、川根本町
静岡牧之原茶	272	
菊川茶	184	
掛川茶	146	
いわた茶	194	
金谷茶	385	旧金谷町

※ 暫定規制値および準用値…500Bq/kg
 ※ 検査機関：厚生労働省横浜検疫所
 ※ ヨウ素については、全ての地点で検出されなかった

「安全な数値」とは一体いつなのか
 静岡市の発表に基づいて考察する

静岡市は6月15日、放射線を出す能力の強さを表す単位「ベクレル」から、被ばく程度を示す単位「シーベルト」に換算した数値を発表した。
 市環境保健研究所によると、藁科地区で規制値を超えた679ベクレルの放射性セシウムを含む製茶を、仮に毎日10²ずつ1年間食べ続けた場合の年間被ばく線量は「約0.03³シーベルト」になるという。国が定めた年間被ばく限度「1³シーベルト」を大きく下回る数値。この数値は、胸部レントゲン検査1回の被ばく量(0.05~0.1³シーベルト)や東京-ニューヨーク間を片道飛行した際の被ばく量(0.1ミリシーベルト)も大きく下回っている。これは茶葉を食べた場合の数値であり、飲用する場合には、さらに数値は低くなる見込みだ。藁科地区で検出された放射性物質質量679ベクレルを大幅に下回っている川根茶(350ベクレル)は、数値上、「安全」が証明されたと言えるのではないだろうか。



▲6月10日夕方、テレビのニュース番組では、悲嘆に暮れる本山茶産地の茶工場関係者が「自分のことよりも本山茶自体がどうなるか心配」とコメントを述べていた。

自主検査によって判明したこの茶工場での値は679ベクレル。規制値の500ベクレルを超えたのは静岡県では初。
 6月9日夜、藁科地区の公民館には、近隣の茶農家たちが集まり、緊急の会合が開かれた。「大変なことになった」「これからどうなる」「二番茶を収穫しようと思ったけどやめた。市場で買ってくれないかもしれない…。どの茶農家も悲痛な叫び声を上げた。

6月11日から14日には、藁科地区の計20工場で製茶の緊急調査を実施。5工場から規制値を超える放射性セシウムが検出された。と同時に、この5工場に対して、県は「一番茶の出荷自粛と自主回収」を要請した。
 計6工場に規制がかかった本山茶産地。2番茶で実施した調査では安全が確認されたものの、茶農家たちの表情に不安と落胆の色は隠せない。

テレビのニュースに遅れること半日、8日の新聞では志太榛原周辺の調査結果が一面に掲載された。関係者は「規制値内」の記事に胸をなで下ろした。